

竜たつの子新聞

第10号

市政報告
発行 **あらしき竜二**
倉敷市川入 641-5
TEL & FAX : 086-434-8185
http://www.ryu2.biz
e-mail: info@ryu2.biz

facebook

恒例10回目のジーンズ議会

(平成28年9月7日〜27日)

今回の補正予算は、待機児童対策など早急に取り組むことが必要な経費、地方創生を推進するための経費などを中心に92億4400万円を計上しています。

玉島地区に新設するごみ焼却処理施設などの計画を検討する審議会設置条例案や、児島市民病院の診療科目に緩和ケア内科を追加するための市民病院事業設置条例改正案なども、可決しました。

新規 補正予算の主な事業

【市長公約】国際おもてなし講座実施事業

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、市民や事業者を対象に英語対応力の向上とおもてなし機運の醸成を目的とした講座を開催します。
事業費 80万円

【市長公約】アニメ映画タイアップ観光プロモーション事業

下津井を舞台としたアニメ映画「ひるね姫」(平成29年3月公開予定)を活用した観光プロモーションを実施することで、観光客の誘致を図ります。
事業費 3963万円
【債務負担行為 202万円】

【市長公約】介護ロボット導入支援事業

介護従事者の負担を軽減するため、介護ロボットを導入する介護サービス事業者に対して、導入費を助成します。
・55法人分(1法人辺り927千円が上限)
事業費 4915万円

【市長公約】浸水対策事業

浸水被害から市民の生命・財産を守るため、ポンプ場の整備や遊水地の深浅等調査を行います。
事業費 7500万円
【債務負担行為 1億200万円】

【市長公約】新ごみ処理施設整備事業

一般廃棄物処理施設整備審議会を設置し、審議会を開催します。
事業費 26万円

【市長公約】下水熱利活用事業

屋内水泳センターの熱源に下水熱を利用したシステムを導入するための設計を行います。
事業費 1000万円

【市長公約】民間認定こども園 施設整備助成事業

園舎等を新たに整備する法人に対して、整備費の一部を助成します。
・1施設(定員(保育所部分)90人、(幼稚園部分)24人)
事業費 2億1661万円

(単位 千円)

予算規模

区分	補正前の額	補正額	計	前年度同期 (%)
一般会計	172,865,446	9,244,199	182,109,645	97.3
特別会計	131,930,285	10,000	131,940,285	100.8
財産区会計	59,976	—	59,976	90.6
企業会計	54,444,370	308,345	54,752,715	105.7
合計	359,300,077	9,562,544	368,862,621	99.7

↑ 9月議会で可決された補正予算

「熊本の地へ」

2011年3月11日東日本大震災が起きて5年が立つ。

しかし被災地が抱える課題は大きく2極化し、より複雑になってきたように感じます。まず福島、そして岩手などの福島以外の県。そこに大きく原発という山がある。今だ復興は道半ばなのか。底が見えない。

日本は災害大国という事が身に染みるようです。

平成26年8月20日にはお隣の県、広島市に土砂災害が起き、大被害を受けた。

そして今年は4月14日に熊本地震が発生。

一報を聞いた時の驚愕は忘れられない。熊本に行つて復興の手伝いが出来たらと思いましたが。ガレキを撤去し、重くなった土砂を掻き出し、復興の一助となれば嬉しい。

熊本地震とは4月14日以降に熊本県と大分県で、相次いで発生している地震を指します。

特徴的なのは前震と本震。どちらも震度7を記録し、その威力は阪神淡路大震災と同規模だという。6月4日(土)車で熊本へ出発。

2か月が経過していたが、現地ではまだまだ混乱の中にあるという。ガレキ撤去や力仕事頑張るぞお気合を入れる。

6月5日(日)7時40分益城町ボランティアセンターに到着。

益城町は熊本市に隣接し、熊本空港や有名企業を有する大きな町だ。だが「町をひっくり返したよう」と形容されているほど被害を受けたのだ。



受け付けは9時からのはずだが、何と締め切られていたのに驚く。日曜だったせいも九州各地の高校の運動部員が駆けつけていたのだ。彼らの輝く目と若い力を見て、なかなか若者もやるじゃないかと嬉しくなるが、手持ち無沙汰は否めない。



ネットで調べると隣村の西原村で「農業支援ボランティア」の空きがまだあるという。あわてて西原村に向かう。

車から見る景色は少しチグハグだ。道を挟んで左手側は家がつぶれ、ガレキの山だが、右手側は被害が少なく、コンビニがありスーパーが営業している。



断層の関係と聞くが、その格差に言葉が見つからない。「農業支援ボランティア」大きなビニールハウスの中には一面のほおづきが綺麗に育っている。ご高齢の女性の指示の元、ほおづきの下葉刈りとワキメつみに取り組む作業はずっと中腰のせいか腰が痛い。何とか依頼された作業が終了。心からほっとする。



この農業支援は新しいボランティアスタイル。農業を収入の柱とする農家では農作業の遅れが収入ゼロになりかねない。生活支援として作業を手伝うのだ。「災害復旧」と「支援ボランティア」どちらも必要だと実感。

6月6日(月)この日はようやく益城町ボランティアセンターで受付が済み、テントの中でニーズのマッチングを待つ。

これは新しいやり方でセンターの方が読み上げる依頼に手を上げて意思を示すのだ。

これなら各自の希望や適正に応じて作業が出来る。避難所での作業依頼が続くが、力仕事が出たのでスルー。次に個人のお宅の荷物出しとガレキ撤去。

これに手を上げる。メンバーは南相馬の方など15人。スコップなど必要な備品を車に積む。何と手袋まで、全ての備品を用意している。まさに身一つで行っても大丈夫。驚く。



ボランティア先にて倉庫の中を片付ける。



昼休憩。コンビニで買った弁当を急いで食べ、近くにあるという断層を見に行く。山を登って5分くらいか。想像したような斜面ではなく10cmくらいの段差が何個かあるような印象。これがこれほどの被害を出したのか信じられない感じがする。断層の端を少しだけ踏む。午後は倉庫の片付けとガレキ撤去。終了の時間になる。家族の皆さんに喜んでもらえて嬉し。



熊本ではわずか二日のみの活動でしたが、復興へと続く確かな力を感じることが出来ました。

東日本大震災

被災地はこれから政府が位置づけた「復興、創生期間」として新たな5年に入る。だが、本当にゴールがあるのだろうか。

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業が進んではいない。放射能や汚染水との戦い。最大の難関となる熔融燃料の取り出しの方針

どこでも被害は起こり得るという意識をもって倉敷に帰ろう。



決定も一年後の予定だ。一方で福島避難指示区域の解除が活発化している。

ただ、6年目に入り、避難先で新たな生活をスタートしているケースが多く、

帰宅に直結しないのだ。東北はゆっくりと少しずつ復興に向けて歩いているのだと思う。

その歩みを見守り、支え、一緒に歩くこと。そのことを考えていきたいと思えます。

保健福祉委員会市民意見交換会報告



民間保育所における現状と課題について、平成28年8月に倉敷市民間保育所協議会と意見交換会を実施しました。

〔民保協の現状について〕

・民保協・・・市内69か所の認可保育所と3か所の認定子ども園からなる保育組織。

・平成28年度の会員施設の利用定員の合計は8400名で、公立保育園も含めた市内の総定員の約75%を占めている。

・会員園は、公立の通常保育に加えて、乳児保育、(夜7・8時までの)延長保育、休日保育、(保育認定を受けられない子どものため)一時保育を提供している。

〔保育園等々の安定的継続的な運営について〕

要望 平成27年4月からの「子ども・子育て支援新制度」により、保育所・幼稚園・認定子ども園を一体的に管理することが可能となったが、逆に保育所が他と比べ冷遇されていることが顕在化した。保育所・幼稚園・認定子ども園の委託費人件費の単価はほぼ同じであるが、一方で保育所保育士と幼稚園教諭が保育のために拘束される時間を比較すると保育所保育士の方が格段に長い。保育所の給与

は、全産業の平均賃金と比較すると月額約11万円、女性労働者の平均との比較でも月額4万円と低い状況。

保育士の処遇改善と新制度における保育短時間制度の導入について、現場保育士・事務担当者の負担が大きい。保育短時間認定は廃止し保育標準時間認定のみとするよう、国へ要望してほしい。

〔研修の充実について〕

要望 民保協では、職員の資質向上のため、様々な研修を行っているが、保育士が研修に参加するときの代替職員の配置が、費用的な課題もあり、十分行えていない。これを解消し、多数の職員に研修参加の機会を増やしたい。引き続き、事務局の維持、乳児・主任保育士研修会に対する市の支援をお願いしたい。

〔老朽化施設の整備補助について〕

要望 現在の民間保育園は、昭和40年代後半に開設した園が多く、老朽化が進み様々な修繕が必要となっている。老朽化施設の整備ペーシングを上げて、毎年複数園の整備ができるよう予算措置してほしい。

保健福祉委員会副委員長

荒木 竜二

〔編集後記〕

倉敷市は今年度も被災地に職員を派遣しました。大槌町には小西技師。

釜石市には佐藤主任が向かわれました。大変な仕事である。

その心意気に感謝を申し上げたい。

小西技師に現在の大槌町について伺いました。

8月30日に上陸した台風10号によって、またしても甚大な被害をうけたとの事。

しかし雰囲気は明るく、へこたれない気運が大槌町に溢れているという。

元来、東北は大雨被害が少なかつた土地だ。それでも甚大な被害を受けたのだ。

私達も「想定外災害」はどこでも起こり得るのだと覚悟をしなければならぬのではないか。

東南海、南海地震、そして台風、ゲリラ豪雨等の想像を超えた規模の自然災害を想定した防災計画と防災訓練を地域的、広域的に実施することが急務になっていきます。

あらしき竜二